

神山神社だより

平成 26年 4月
11号

立て替
えられ
た正宮
を目的
の
当たり
にして

新しい息吹を感じられたことではないでしょうか。そして日本人として生まれてよかつたと改めて思えたことではないでしょうか。その様なことを考えますと、神社としての役割と云うものが心の安寧と未来への希望を照らす施設として、大切なものか改めて考えさせられた一年でした。

神山神社も歴史のある古き神社としてこの福岡の地に鎮座しております。前年度は神社に参拝にこられる方の為に神社の神様が分かる看板の設置、手水が常時使えるように山からの配管設置、「和合木」紹介看板の設置、夏祭り大垂れ幕を



社務所にてお守り頒布

■ 新年度に向けて挨拶

この神社だよりが皆様のところ配られるころは、もう、四月の桜が咲くころの新しい年度になっていることと思います。日頃は神社の運営に対しましてご理解いただき誠にありがとうございます。昨年度は、神社の本宗と仰ぐ伊勢の神宮の第六十二回式年遷宮が斎行され、多くの方々にお参りしていただきました。新春の伊勢旅行で行かれた方、また個人で行かれた方いらっしゃると思いますが、

後も、各戸皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

■ 神様とのかかわり方

日本人は古来よりありとあらゆることに神様がいらっしゃるってその神様たちのことを八百万の神と言ってきました。家の中には火の神、水の神、木の神、さらには、玄関の神、食物の神、歌にもなっているトイレの神様などがいらっしゃいます。あらゆるものに対して畏敬の念を抱き、神様の恵みによって生かされていると言う考え方で、このように多くの神様を思い、創造することで、豊かな生活が送れているのだと。しかしながら、現代の生活を考えると、電気があることが当たり前、ご飯がいつでも食べられることが当たり前、水は流しっぱなし、明

かりはつけっぱなし、これではいざと云うとき何も出来ず、途方にくれて何も出来ない者になってしまおうでしょう。いざと云うときはいつ起こるかも知れませんが、停電、水不足程度であればまだしも、火事であったり、水害であったり、地震、津波、すべてにおいて突然やってきます。火の神様を例にとると、日頃は煮物や暖をとるのに火は欠かせないものですが、一歩間違えると家を焼きます、山を焼きます、人の命を奪います。このことは神の心として和御魂（にぎみたま）荒御魂（あらみたま）と言います。私たちは神の御心により生かされていると昔の人は思っていました。現代ではその様に思う人はいないでしょうが、常に神を思い、神の恵みに感謝と、恐れを感じて災害に備えることで豊かな生活を送ることが出来るのではないのでしょうか。

東日本大震災より早三年が過ぎようとしております。未だに復興そのものが十分進んでいないような状態です。いかに災害と云うものが恐ろしく、その爪あとを未だに残しているか。その教訓を忘れず、神と対峙して忘れることのない様、今年も、神社にて災害復興祈願祭を執り行いました。



氏子会館内神殿

■ 今年度の修繕計画

今年度は、二月の大雪により氏子会館裏の檜木が雪の重みに耐えられず倒れてしまいました。幹周り七十センチ〜八十センチほどの大木です。氏子会館の屋根を一部壊しただけですんだのが幸いでしたが、かたづけと屋根修理費用として三十万円ほど思わぬところでの出費となりました。さすがに自然の力には勝てず、いかに神社を守っていくか痛感しております。神社のいたるところを見れば、修復しないといけない場所が多くあります。特に拝殿の玉垣の石積が前面に膨れており、後十数年もすれば崩れてしまう状態です。その為、今期のうちにしっかりと修復し危険のない様にいたします。

また近い将来、社務所の耐震修理、末社（夏宮・春宮）の修復を予定しております。その際、神社にいただいている歳費では賄いきれませんので別途、ご協力をお願いする所存です。

■ 特別奉納

昨年度、特別奉納金のご報告

還暦者奉納金・・・金 五十二万円

三十三歳厄祓奉納金・金 五万五千元

ありがとうございます。調度品・備品等の購入に使用させていただきました。

■ 行事予定

今年度の神社主催行事予定

六月三十日・・・大祓い式

七月十五日・・・お鍛冶祭り

七月二十六日・・・例大祭前夜祭

七月二十七日・・・例大祭

九月二十三日・・・秋季祖霊舎御霊祭り

十一月十六日・・・七五三祭り

十一月二十三日・・・秋祭り

十二月三十日・・・大祓い式

一月一日・・・元旦祭

二月二十日・・・天神神社祭典

三月一日・・・春祭り

三月二十一日・・・春季祖霊舎御霊祭り

■ 手水の仕方・玉串の仕方

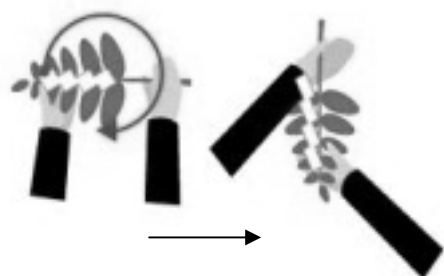
神社でお参りする場合、境内にある手水で身を清めて神様の前へ進み、二拝二拍手一拝の作法でお参りするのが通常作法ですが、最近では、手水を利用しない人や手水の仕方を知らない人が多くなっています。間違った作法で行うことは、恥ずかしいことだと思ってください。また、いつでもどこに正式作法でお参りしなければならぬか分かりません。戸惑う前にじっくりと覚えてみてください。

伊勢神宮など大きな神社でよく見かけるのは、柄杓で水を汲んで直接、口をつ

けられる方、柄杓の残り水を、手水盆に戻される方が多くいらっしゃいます。それは間違いです。若い人より年配の方が多いです。それだけに周りから白い目で見られているかもしれませんので注意してください。

玉串を使って参拝することはめつたにありませんが、重要な役職をもたれた場合には、必ず、正式な作法を覚えてください。

昨年度ではありますが、榊山神社にて神社職員並びに氏子総代さんたちを対象に各作法の研修会を行いました。地区単位でご要望があれば講習会を開きたいと思っております。



■ 榊山神社歴史探訪

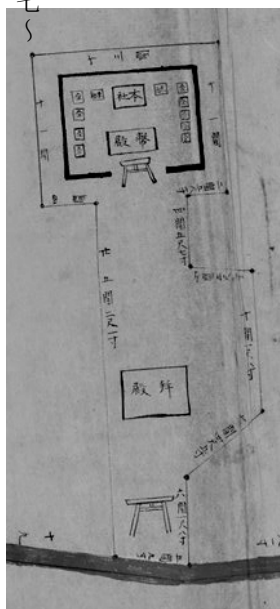
榊山神社の創建は養老年中(七一七〜七二三)であると本殿内棟札に記載され

ていますが実際、目にした方は本殿を改修した時分の方たちしか知らないことで、このことは苗木伝記及び美濃古道記に書かれています。

榊山神社由緒書

「当社創立は苗木傳記及当社所蔵の古文書によれば養老年中六月十四日上苗木の住人荒田栄久入道勸請創立と傳ふ近郷の大神にして苗木城主遠山家の崇敬篤く天文十年丑十月遠山左近佐様御再建慶長十九年寅九月遠山久兵衛友政様御再建寛文八申年遠山信濃守様御再建 各々棟札及記録存す 再来上葺修繕等節は殿様より其の都度御寄進あり 尚田畑山林宝物等御奉納あり 内吉則作銘刀は国宝に指定せらる 祭礼は年々六月十四日叩祭の称 遠近に高く近郷崇敬の大神なり 往古は牛頭天王社と称せしも明治初年榊山神社と改称奉り郷社に加列せらる」

昭和十七年の宗教法人設立登記簿神社明細帳に記載



右の図は明治八年以前の神社見取図です。